

# 議案一覧

第1号議案	役員の改選について	P. 1
第2号議案	国への要望書	P. 2～5
第3号議案	クルーズ船社への要望書	P. 6～8
第4号議案	令和元年度活動報告	P. 9～13
第5号議案	令和2年度活動計画	P. 14～18

役員の改選について（案）

会長候補

横浜市長 林 文子

副会長候補

小樽市長 迫 俊哉

青森県知事 三村 申吾

富山県知事 新田 八朗

静岡県知事 川勝 平太

神戸市長 久元 喜造

広島県知事 湯崎 英彦

香川県知事 浜田 恵造

長崎県知事 中村 法道

鹿児島県知事 塩田 康一

那覇港管理組合管理者 玉城 康裕

## 第2号議案

### 我が国におけるクルーズの振興に向けた要望書（案）

#### \*国向け

2019年は、アジアにおけるクルーズ需要の増大を背景に、我が国においても、クルーズ船の寄港の増大やこれに伴う外国人観光客の大幅な増加を実現するなど、まさに「クルーズ新時代」が到来した。しかし、2020年新型コロナウイルスの影響により運行中止を余儀なくされた。

「クルーズの安全・安心の確保に係る検討・中間とりまとめ」が公表され、国内クルーズの再開の取組が進んでいるが、ウィズコロナの中での安全・安心なクルーズ船の寄港を図るとともに、さらに本格的なクルーズ再開を踏まえ、寄港を通じた地域振興・経済の活性化の準備も必要である。

そのため、感染症に対する課題に加え、寄港地における受入環境の整備（ハード面・ソフト面）等の様々な課題がある。

このような課題については、各港湾管理者等だけで解決できないものが多く、官民一体の取組とともに、国等の関係機関による取組が是非とも必要なものと考えられる。このため、各事項を実現されるよう、強く要望する。

#### 記

##### 1 感染症対策に対する支援（国土交通省）

クルーズ船の寄港に対して不安を抱いている地域住民が安心してクルーズ船の寄港を歓迎できるよう、クルーズ船の安全性に関する情報発信の積極的な展開を要望する。また、各港湾が感染防止対策等を適切に実施できるよう、港湾関係者間の情報共有や他港事例等の共有のためのプラットフォームの構築や、感染防止のための啓発ポスター等の作成を要望する。

クルーズ船で感染者が発生する事態に備え、国による資機材等の支援体制や広域的な港湾利用調整等を実施する仕組みの構築を要望する。

また、検疫時等の情報収集・共有体制整備やターミナル施設の改修など港湾における感染症対策に対する財政的支援の充実を要望する。

大規模感染発生時の寄港先自治体の負担軽減となる対応策を構築するよう要望する。

さらに、国際クルーズに対応するガイドラインの早期整備や、外国船社に対するガイドライン等の周知、遵守徹底の指導を要望する。

## 2 感染症対策に対する支援（厚生労働省）

大規模クラスターが発生した際には都道府県の範囲を越えた広域的な有症者の受入が必要となることも想定されることから、このような事案が発生した際には国による広域調整を実施するなどのさらなる支援を要望する。

さらに、大規模感染発生時の寄港先自治体の負担軽減となる対応策を構築するよう要望する。

国際クルーズについては、着岸検疫が長期に渡らず、迅速な検疫が行われるよう、体制の強化・拡充を要望する。また、セカンドポート以降での感染者発生に対しても迅速に検疫が行われるよう、体制の強化・拡充を要望する。

## 3 クルーズ関連港湾施設と受入設備の充実に対する戦略的・重点的な予算の確保と整備の推進

### (1) 旅客船岸壁等の整備の推進

岸壁延長や水深の不足により着岸できない、港内の静穏度不足や防舷材等の岸壁施設の強度不足により安全に入港できない、寄港地の交通渋滞が社会問題になっている等、外航クルーズ船の入港需要の増大やクルーズ船の大型化や多様化に対し、我が国の港湾施設及びそれを取り巻く環境は、必ずしも十分な施設が整ったものとなっていない。

クルーズ船に対応した岸壁や広場・緑地等の港湾施設は、港の直背後の地域だけでなく広域での観光振興や活性化に貢献するものであるとともに、我が国における観光立国の推進に寄与するものである。クルーズ船社の入港要望に確実に応えていくため、早急な港湾施設の整備と既存ターミナルの機能強化、上屋等の活

用などの受入設備の充実が必要であり、そのための戦略的、重点的な予算確保を要望する。

## (2) 訪日クルーズ客等の受入環境整備への支援

新型コロナウイルス感染症の収束の後に必要となる訪日クルーズ客の乗下船から寄港地観光に至るまでの円滑かつ快適な動線の確保及び旅客の満足度向上、地元での消費拡大による経済効果の最大化を図るため、国際観光旅客税も活用し、Wi-Fi 整備や案内標識の多言語化等に加え、トイレ、テント、観光資源の整備、上質な寄港地観光プログラムの造成等に対する支援を要望する。また、クルーズ船の受入環境改善に向けた施設整備等への支援を要望する。

## 4 円滑なクルーズ旅客受入のためのC I Q体制の強化

クルーズ船入港時において、入国審査等の手続きに時間を要し、クルーズ客の滞在時間を短縮してしまっていることが、クルーズ客の観光行動の制約となり、我が国でのクルーズ振興における大きな課題となっている。また、新型コロナウイルス等感染症対策として、ますます水際対策は重要となる。

引き続き、高度なセキュリティを確保しつつ、必要な人員や機材の確保を図る体制の強化、手続きの柔軟化及びさらなる迅速化に向けた取組を要望する。

## 5 地域経済への波及効果の増大に向けた支援

農水産品を含む地域産品等がクルーズ船内において提供されるなど、クルーズ船寄港による地域への経済効果が期待されているが、現在は限られた観光資源等へのツアーにより、地域経済への波及効果が十分に発揮されているとは言いがたい。

そこで、港湾とクルーズ船社が連携した内陸部を含めた広域に及ぶ上質な寄港地観光の造成等に対して、国や地方整備局等からの支援を要望する。

## 6 海外へのクルーズプロモーションに対する支援

各港が連携し、一体的なプロモーションを行うことが効果的と考えられるため、本会議においてこれに取り組むものであるが、国策としての観光立国推進と感染症対策を両立させる観点から、支援体制の確保や支援策の充実を図ることを要望する。

## 7 船舶航行安全対策に対する支援

クルーズ船の大型化及び多様化に伴い、各港では安全に航行させるための入出港条件等の検討が必要となっており、専門知識を有する団体へ委託することがある。

クルーズ船の受入に際しては、効率的かつ迅速に対応できるような支援を行うとともに、近年では、操船能力が高いクルーズ船舶もあるため、これらに関する情報共有への協力を要望する。

令和2年〇月

全国クルーズ活性化会議

会長 〇〇

## 第3号議案

### 我が国におけるクルーズ市場拡大に向けた要望書（案）

#### \*船会社向け

2019年、世界のクルーズ人口は、アジアの経済成長等を背景に大きく増加し、我が国においても、日本船社の長年にわたる寄港地開拓が礎となり、クルーズ船の寄港の増大やこれに伴う外国人観光客の大幅な増加が実現したところである。しかし、2020年新型コロナウイルスの影響により運航中止を余儀なくされた。

「クルーズの安全・安心の確保に係る検討・中間とりまとめ」が公表され、国内クルーズの再開に向け取組が進んでいるが、ウィズコロナの中での安全・安心なクルーズ船の寄港を図るとともに、さらに本格的なクルーズ再開を踏まえ、寄港を通じた地域振興・経済の活性化の準備も必要である。

このような背景において、感染症対策に対する課題に取り組むとともに、日本全体でのクルーズ振興・クルーズ市場の回復に向けて、クルーズ船社に対し、全国クルーズ活性化会議として、以下のとおり要望する。

#### 記

##### 1 安全・安心の確保に向けた感染症対策

クルーズ船の寄港に対して不安を抱いている地域住民が安心してクルーズ船の寄港を歓迎できるよう、有症者発生時の本船の対応計画等を事前に示し、その計画等に、乗船前のPCR検査、船内のウイルス検査体制、乗下船時間の分散化、船内衛生管理規程、有症者発生時の迅速な連絡体制や船会社の役割と責任、感染発生により生じる乗船客の搬送や宿泊場所への対応、一般財団法人日本海事協会の認証状況などを含むことを要望する。

また、港湾管理者等が寄港にあたり船社に求める条件等について、船社のほか、船舶代理店やランドオペレーター等においても遵守すること、船内感染予防対策・安全対策等について、広く一般に情報発信や説明会を実施することを要望する。

## 2 寄港地の多様化

日本におけるクルーズ市場拡大、ひいては日本のクルーズ人口の増加に向けては、クルーズ商品の多様化やリピーター対策が必須であることから、既存の寄港地だけでなく、新しい寄港地への寄港促進と PR 機会の提供を要望する。また、内陸部を含む広域に及ぶ寄港地観光が可能となる十分な停泊時間を有したクルーズ行程とすることを要望する。

## 3 ロングクルーズ・日本発着クルーズの造成

現在、成長著しいアジア（中国）クルーズ市場は、ショートクルーズが主流であり、寄港地が九州・沖縄に集中している。

こうした状況の中、誘致・商談会等において、自治体間の連携（複数港での連携等）による寄港地の多様性とその魅力発信に対応し、新たに日本発着クルーズやロングクルーズなどの構築等アジアクルーズ市場のさらなる発展に貢献するとともに、その波及を特に東日本など日本全域に広げていくことを要望する。

## 4 寄港地観光の質の向上

地元旅行者等を活用し、寄港地やその周辺地域の観光資源や地元農産品を活かし、内陸自治体を含め地域と港湾が連携した質の高い寄港地観光の造成に必要な意見交換を行うことを要望する。

## 5 F I Tを対象とした船内での地元観光情報の提供場所等の確保

ラグジュアリー船などにおいては、F I T（個人手配の海外旅行）が多く、地元の観光部局による、きめ細やかな観光情報の提供が可能であるが、F I Tの少ないカジュアルクルーズにおいては、情報提供できる場所が確保できないため、観光情報が十分に提供できていないのが現状である。

乗船客にとって、より満足度の高い観光情報を提供するために、クルーズ船社と地元やその周辺地域との間で意見交換の場を設けるとともに、充実した観光情報の発信を可能とする船内での情報提供等の方策について検討を要望する。



## 6 船社から地元自治体に対する情報提供

寄港地観光の情報やチャーター情報、オフィシャルツアー、乗船客や乗組員情報など、円滑な受入にあたり必要な情報が寄港直前にならないと入手できないことから、結果として観光地などの受入体制が不十分となり、また交通渋滞など社会問題にもつながっている実態がある。

乗船客や乗組員に向けた各観光地での質の高いサービスを確保するために、これらの迅速な情報提供を要望する。

## 7 適切な予約申請

複数港に予約を行い、数か月前など寄港直前でのキャンセル手続きは、他船社の寄港機会の損失につながり、ひいては我が国のクルーズ市場の発展に影響を与えることになるため、寄港地確定後は速やかにキャンセル手続きを行うことを要望する。

## 8 受入施設の利用に関する理解

クルーズ市場が拡大し、一部ではそれに伴うクルーズ受入施設の整備も進んでおり、受入施設に関連する管理・運営サービス等の費用について、新たな負担が発生することになる。

新たな受入施設や、シャトルバス輸送などの寄港地での乗船客へのサービス等の魅力が増えることは、寄港地だけではなく、クルーズ産業が持続的に発展することにも繋がることから、施設利用等に関連する適切な費用負担について、理解していただくことを要望する。

令和2年〇月

全国クルーズ活性化会議

会長 〇〇

## 第4号議案

# 令和元年度活動報告

### 1 会議の運営に関する活動

- (1) 総会（令和元年7月19日）
- (2) 幹事会（令和元年7月19日）

### 2 要望・提言の実施

総会において、国土交通大臣政務官に要望書を手交（令和元年7月）

### 3 ポートセールス・魅力発信

外国クルーズ船社キーパーソンとの商談会への参加

### 4 令和元年度研修クルーズの実施

- (1) 研修クルーズ 1回目（令和元年6月2日～6月5日）
- (2) 研修クルーズ 2回目（令和元年9月22日～9月28日）

### 5 「上質な寄港地観光プログラム」の造成に向けた取組

## 活動報告 ①

### 3 ポートセールス・魅力発信

#### 外国クルーズ船社キーパーソンとの商談会への参加

国が開催した外国クルーズ船社との商談会に、延べ46港の会員が参加。

#### 【外国クルーズ船社キーパーソンとの商談会】

船社	日程	場所	参加	写真
ロイヤル・カリビアン・ インターナショナル	令和元年9月17日	静岡市	2港	①
	平成元年9月18日	大阪市	12港	
キュナード・ライン	平成2年1月14日	東京都	14港	②
	平成2年1月17日	大阪市	18港	



写真① 大阪市での商談会



写真② 東京都での商談会

## 活動報告 ②

### 4 研修クルーズの実施

MSC クルーズ社、ミキツアーリストにご協力いただき、全国クルーズ活性化会議への参加自治体の職員を対象に、クルーズの魅力や受入体制の課題などを体験する「研修クルーズ」を実施。また、寄港地の会員が、施設の視察対応などに協力。

#### (1) 「MSC スプレディダ」による研修クルーズ

- ・ 研修期間 令和元年6月2日～6月5日（4日間）
- ・ 寄港地 横浜（発）—シャンハイ（着）
- ・ 参加人数 9名（5団体）



MSC スプレディダ

#### (2) 「セレブリティ・ミレミアム」による研修クルーズ

- ・ 研修期間 令和元年9月22日～9月28日（7日間）
- ・ 寄港地 横浜（発）—広島—北九州—釜山—舞鶴—金沢（着）
- ・ 参加人数 13名（9団体）



セレブリティ・ミレニアム

#### 【研修の様子】



横浜港大黒ふ頭客船ターミナルの様子



学生プレゼン



釜山港の様子

## 【研修アンケートの主な結果】

### 〈良かった点〉

- ・発着が多い横浜港は、シャトルバスでの円滑な輸送、広々としたCIQエリア等設備がかなり整っていた。また港へのアクセスや港からのみなとみらいの景色は非常に魅力的であった。大さん橋旅客ターミナルについては一般市民にも開放されている点で、町との共存が図られていると感じた。
- ・北九州港では今回寄港した他港に比べるとおもてなしブースがかなり充実しており、テントの数が多かった。おもてなしブースが充実していたからか、船員の姿も多く見られ、ビールを飲んだりしてくつろいでいるのが印象的だった。船員へのおもてなしという点では見習うべき点があるように感じる。
- ・金沢港では下船してすぐに日本を代表するような観光地が集積しており港からもアクセスがよいうえ、食・文化・歴史・温泉といった重要コンテンツをすべてカバーしており、クルーズとの相性が極めてよいと感じた。日本海周遊のみならず、日本全体のクルーズ市場で重要拠点となる港だと思う。
- ・避難訓練については、乗船後すぐ実施され日本語での案内もあり、わかりやすいジェスチャーで説明されたため安心感をもって参加することができた。大人数にもかかわらず参加の徹底がなされており、安全対策の確実性を実感した。

### 〈今後の課題〉

- ・地域や港に賑わいをもたらすことを目的として、クルーズ船の受け入れを広げる取り組みを進めている状況は、各自治体、各港においても同様だと感じた。各港の魅力は今後さらに発信していくためには、自治体間の協力、民間企業との連携、関係機関との情報共有など、単独ではなく周囲との協力体制を構築していくことが重要だと感じた。
- ・港間の競争ではなく、各々の港の強みを生かし、地域や国全体でクルーズ船の市場を盛り上げていくことが大切であると感じた。また、どの港も限られた観光材料のなかで誘致に取り組むなかで、リピーターを増やすために常に新たな視点で魅力を発信し続けることが大切だと感じた。
- ・クルーズ船の寄港数を増やすだけでなく、いかに地域にお金が落ちる仕組みを作るかが重要であると感じた。船を呼び込むためのインセンティブや、シャトルバスや係船料の減免等も一つの手段ではあるが、今後、長期的にクルーズ船の受け入れを続けていくとなると、いかに地域が利益をあげ、持続可能な事業としていくかということが最も重要であると感じた。

## 5 「上質な寄港地観光プログラム」の造成に向けた取組

### ○意見交換会への参加

クルーズの寄港地観光について量、質ともに改善し、旅客の満足度を向上させることが急務となっている。そこで、クルーズ船社と日本の寄港地による意見交換会を開催し、寄港地観光の質の向上につなげていく。

#### (1) クリスタル・クルーズ社との意見交換会

令和元年5月13日

#### (2) ロイヤル・カリビアン・インターナショナルとの意見交換会

令和元年6月17日

#### (3) MSC クルーズ社との意見交換会

令和元年7月19日

#### (4) ポナン社との意見交換会

令和元年11月21日

### ○クルーズ船社と連携した上質な寄港地観光ツアープログラムの造成

意見交換会を契機に、地元のエキスパートの同行や解説、体験型観光を核とした寄港地観光ツアーを造成。プリンセス・クルーズ社の実施するダイヤモンド・プリンセスの日本発着クルーズで昨年4月より21港で30のツアープログラムを実施。

## 第5号議案

### 令和2年度活動計画（案）

#### 1 会議の運営に関する活動

- (1) 幹事会（令和2年6月18日）※Web会議にて開催
- (2) 幹事会（令和2年10月13日）※Web会議にて開催
- (3) 幹事会（令和2年10月30日）※Web会議にて開催
- (4) 総会（令和2年11月9日～）※書面により開催

#### 2 クルーズの安全・安心の確保に向けた取組

- (1) クルーズの安全・安心の確保に係る国との情報共有
- (2) 各港湾における取組・事例の共有
  - ア クルーズ船受入にあたってのクルーズ船社との協議等の事例
  - イ クルーズ受入港の旅客ターミナル等での感染症対策事例
  - ウ クルーズ船内で感染症が確認された場合の対応事例
- (3) 各港の受入事例・提案を踏まえた感染予防の啓発ポスター等の作成

#### 3 船社との情報交換やクルーズ市場に係る情報収集について

- (1) 外国クルーズ船社等キーパーソンとの商談会への参加（可能なら実施）
- (2) シートレード・クルーズ・グローバルに関わる情報共有

#### 4 研修クルーズの実施、企画、調整について（可能なら実施）

## 令和2年度の活動計画①

### 2 クルーズの安全・安心の確保に向けた取組

#### (1) クルーズの安全・安心の確保に係る国との情報共有

クルーズの安全・安心に関する最新情報や検討状況などについて、各港湾と国の間で情報共有を実施する。

- ・ 6月18日 幹事会
- ・ 10月13日 幹事会
- ・ 10月30日 幹事会

適宜必要に応じて実施予定

#### (2) 各港湾における取組・事例の共有

##### ア クルーズ船受入にあたってのクルーズ船社との協議等の事例

横浜港、神戸港における寄港時の協議のポイント等の事例共有

##### イ クルーズ受入港の旅客ターミナル等での感染症対策事例

国内クルーズ再開等クルーズを受け入れた港湾からのターミナルなどでの感染防止対応、寄港地観光での対応、訓練などの情報共有

##### ウ クルーズ船内で感染症が確認された場合の対応事例

ダイヤモンド・プリンセス号やコスタアトランチカ号での対応時での現場で実際行われた関係者間の対応、費用等の情報共有

#### (3) 各港の受入事例・提案を踏まえた感染予防の啓発ポスター等の作成

各港湾でのクルーズ船受け入れ事例や各港湾管理者からの具体的提案をもとに、国と協力してクルーズターミナルや受け入れ施設等での感染予防啓発ポスターを作成



## 令和2年度の活動計画②

### 3 船社との情報交換やクルーズ市場に係る情報収集について

#### (1) 外国クルーズ船社等キーパーソンとの商談会への参加

外国クルーズ船社等キーパーソンの来訪に併せて開催される商談会に協力するとともに、会員がこれに参加できる機会を提供。

令和2年度については、国際的な人の往来の再開の進捗と関係機関との調整の結果、商談会の実施が可能であれば、実施予定。

#### 【これまでの商談会の開催状況、27年度以降】

船社	開催日	場所	参加
MSC クルーズ	平成 27 年 12 月 1 日	静岡市	6 港
ポナン社	平成 27 年 12 月 3 日	青森市	6 港
シルバーシー・クルーズ	平成 28 年 2 月 12 日	下関市	17 港
セレブリティ・クルーズ	平成 28 年 2 月 25 日	京都市	6 港
天海郵輪、カイーサ郵輪	平成 28 年 10 月 19 日	新潟市	6 港
MSC クルーズ	平成 28 年 12 月 1 日	名古屋市	8 港
アザマラ・クラブ・クルーズ	平成 28 年 12 月 2 日	函館市	12 港
ポナン社	平成 29 年 1 月 27 日	仙台市	21 港
キュナード・ライン	平成 29 年 2 月 23 日	福岡市	15 港
天海郵輪	平成 29 年 10 月 11 日	敦賀市	4 港
	平成 29 年 10 月 13 日	京都市	8 港
ノルウェー・クルーズ	平成 29 年 10 月 24 日	和歌山市	3 港
	平成 29 年 10 月 27 日	四日市市	7 港
ロイヤル・カリビアン・インターナショナル	平成 29 年 11 月 2 日	敦賀市	8 港
ホーランド・アメリカ・ライン	平成 30 年 1 月 18 日	一関市	6 港
	平成 30 年 1 月 19 日	水戸市	10 港
ポナン	平成 30 年 2 月 28 日	鳥取市	11 港
	平成 30 年 3 月 2 日	徳島市	12 港
シルバーシー・クルーズ	平成 30 年 10 月 31 日	秋田市	8 港
	平成 30 年 11 月 22 日	仙台市	19 港
MSC クルーズ	平成 31 年 1 月 9 日	境港市	5 港
	平成 31 年 1 月 10 日	広島市	8 港
クリスタル・クルーズ	平成 31 年 2 月 18 日	広島市	8 港
ポナン	平成 31 年 3 月 6 日	鹿児島市	9 港
	平成 31 年 3 月 7 日	東京都	22 港
ウィンドスタークルーズ	平成 31 年 3 月 13 日	北九州市	19 港
	平成 31 年 3 月 15 日	別府市	9 港

ロイヤル・カリビアン・インターナショナル	令和元年9月17日	静岡市	2港
	令和元年9月18日	大阪市	12港
キュナード・ライン	令和2年1月14日	東京都	14港
	平成2年1月17日	大阪市	18港

## (2) シートレード・クルーズ・グローバルに係る情報共有

開催実績及び予定は下記の通り。

見本市	開催日	場所	参加
クルーズ・ SHIPPING・マイアミ 2013	平成25年 3月12日 ～14日	マイアミ・ビーチ・コンベンション・センター (米国)	17団体
クルーズ・ SHIPPING・マイアミ 2014	平成26年 3月10日 ～13日	マイアミ・ビーチ・コンベンション・センター (米国)	18団体
クルーズ・ SHIPPING・マイアミ 2015	平成27年 3月16日 ～19日	マイアミ・ビーチ・コンベンション・センター (米国)	22団体
シートレード・クルーズ・グローバル 2016	平成28年 3月14日 ～17日	フォートローダーデール・ブロード・カウンティ・コンベンション・センター (米国)	21団体
シートレード・クルーズ・グローバル 2017	平成29年 3月13日 ～16日	フォートローダーデール・ブロード・カウンティ・コンベンション・センター (米国)	21団体
シートレード・クルーズ・グローバル 2018	平成30年 3月5日 ～8日	フォートローダーデール・ブロード・カウンティ・コンベンション・センター (米国)	18団体
シートレード・クルーズ・グローバル 2019	平成31年 4月9日 ～11日	マイアミ・ビーチ・コンベンション・センター (米国)	15団体
シートレード・クルーズ・グローバル 2020※	令和3年4月12日～15日に延期		
シートレード・クルーズ・グローバル 2021※	令和3年4月12日～15日開催予定	マイアミ・ビーチ・コンベンション・センター (米国)	

※シートレード・クルーズ・グローバル 2020 及び 2021 については、下記 HP 参照。

<https://www.seatradecruiseglobal.com/en/home.html>

## 令和2年度の活動計画③

### 4 研修クルーズの実施、企画・調整

国内の新型コロナの感染拡大状況や、国内クルーズ再開動向を踏まえながら、実施が可能であれば、実施予定。